

Title	序(園乾治先生退任記念号)
Sub Title	
Author	鈴木, 諒一
Publisher	
Publication year	1972
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.15, No.2 (1972. 6) ,p.l-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19720630-03958973

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

園乾治先生は昭和46年度を最後として慶応義塾の教壇から去られた。先生には大正8年以来、長い間、本塾のために盡して頂いたことになる。この間、保険学、工業政策、経済政策など、数多くの、必修又は基本科目を中心としてエネルギーな講義をされた。私事にわたって恐縮であるが、私自身も戦時中、先生の興味溢る「工業政策」の講義を拝聴した一人である。先生は甚だ御壮健であったから、老年になられてからも多くの講座を担当され、特にゼミナールについては、「保険学」、「経済政策学」の二ゼミナールを持たれるなど、教育について御熱心であったし、特に法律学の知識を強調された点など、われわれ後輩が、ともすれば経済学的分析に走りがちな傾向に反省を与えられた。

商学部創立当初から先生は最長老として重きをおかれ、創立当時の昭和32年に金原初代学部長が渡米された留守において、昭和33年度の——初めの——専門科目の人員配置やカリキュラムの編成、商学会の経済学会からの分離独立等、草創期ならではの重要事項を手際よく処理されていた。今日の若い教員諸氏には想像しがたい面も少なくないであろうが、当時においては教授会が午後9時を過ぎ、研究室に帰ろうとしても閉っていたと云う事態も少なくなかったのである。昭和34年1月金原学部長が逝去されると二代目学部長に就任され、(実際には金原先生が長い間御病気だったので代理を勤められたが)専門課程創設にあたられた。この間、商学部は「未完成学部」であり、学部を背景とした発言力も今のようにはいかなかったから、理事会その他での御苦勞も並大抵ではなかったろうと推測される。

このように学内問題に熱心であられたにも拘らず、学外においても社会保険審議会その他で一般社会に対する貢献も十分に果されたことは生存者叙勲において勲2等を受けられたことを以ても証明できる。後進の育成にも意を注がれ、直接の門下生として、庭田範秋教授、藤沢益夫助教授、前川寛助教授等優秀な人材を輩出し、間接の御薫陶を受けた人も多数いる。今後は大阪学院大学の専任者として、なお学界に寄与される由であるが、先生の御健康と御長寿を祈って止まない。

昭和47年

商学部部長

鈴木 諒 一